

【児童への話】

立春は過ぎましたが、この土日月は寒かったですね。この新宿でも久々に、積もるほどの雪が降りました。インフルエンザが流行っていますので、マスクをしたり、うがい、手洗いを心がけるなど、健康に留意して過ごすようにしてくださいね。

さて、今日は「オリンピックと国際理解」についてお話しします。

先週2月6日から、冬のオリンピックが始まりました。開催地はイタリア北部の都市ミラノとコルティナダンペッツォです。このコルティナダンペンツォという都市でオリンピックが開催されるのは、70年ぶりのことだそうです。

冬のオリンピックの歴史は、近代の夏のオリンピックに遅れること28年、フランスのシャモニー・モンブランという場所を第1回の開催地として、今から100年ほど前の1925年に始まりました。夏のオリンピックが国や大きな都市の間で争われた戦いの中から生まれた競技をベースにしているのに対し、冬のオリンピックのスキーやスケート競技はもともと、雪と氷に閉ざされるヨーロッパなどの地方で交通や輸送の手段として使われていた用具や道具が使われるようになったものなので、開催当時は競技をする人は限られていました。でも今では、雪がほとんど降らない国からもたくさん参加するようになり、今回のイタリアでのオリンピックは、90以上の国と約3000人の選手が参加する、とても大きな大会となりました。

オリンピックに参加する選手は、血のにじむような努力を積み重ね、自分の国の代表となり、その舞台に立っています。近代オリンピックの創始者、ピエール・ド・クーベルタンは、オリンピックの目的を、「心と身体を鍛え、国の違いを乗り越え、友情、連帯感、フェアプレーの心をもって、平和でよりよい世界を実現すること」としています。選手同士だけでなく、世界の皆が全ての選手や国を尊敬、応援することが、平和な世界をつくることにつながる、ということですね。この考え方を、「国際理解」と言います。覚えておいてください。

これから約2週間、フィギュアスケートやスピードスケート、ボブスレーなどのそりを使った競技、スノーボード、氷上のチェスと言われるカーリング、スキーのジャンプやクロスカントリー、新種目の山岳スキー、そして校長先生が大好きなアイスホッケーやスキーのモーグルなどが行われます。世界中の選手が超一流のプレーを観せてくれるのがとても楽しみです。皆さんも、好きな競技を見つけて、全ての選手に惜しみない応援をしてあげてください。

今日は、「オリンピックと国際理解」についてお話ししました。

【本講話について】

4年に一度の冬季オリンピックが始まりました。競技種目全てにおいて、その国の代表となること自体がとても価値の高いことであり、不断の努力によって代表となった選手の皆さんに心からの敬意を表します。悔いのない競技、演技をしてほしいと思うとともに、子どもたちがその素晴らしさを感じてくれることを願っています。

来週から落五小は、2週間の「なのはな読書旬間」に入ります。そのため、次の全校朝会は3月に入ってからとなります。本講話のページも次回更新は3月です。寒い時期ですが、皆さまどうぞ充実した2月をお過ごしください。